

# 補助具の開発+環境の整備

## 〔リサイクルスタンプの押印〕 ①作業の正確性を高める、補助具の工夫

## ②集中力を高める環境作り

### 授業改善の視点

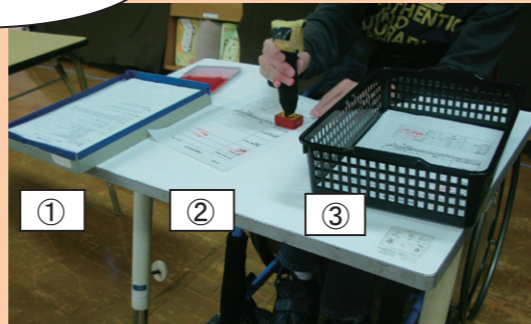
【Fさん】

◆ 指先で紙をつまむのが苦手なので、紙がしわになってしまふ…。スタンプもどこに押しやすいのか分からない。好きなところに、何個押してもいいのかな。



<作業手順>

- ① 右側の箱から紙を1枚取り出す。
- ② スタンプを押す。
- ③ 完成した紙を左側の箱に入れる。

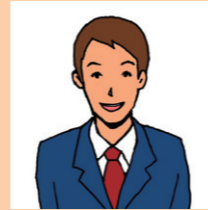


【担任のG先生】

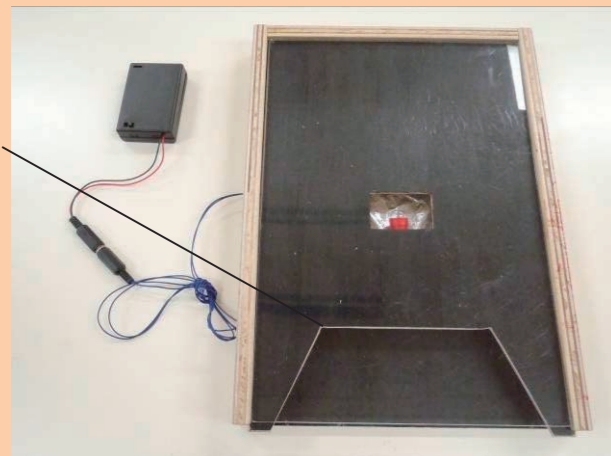
◆ Fさんは、作業学習に集中して取り組めていないみたい。しっかりと手元を見ながら作業できるようにするには、どうしたらいいのかな。

### 補助具や作業環境の工夫

- ◆ 「光るスタンプ台」を作成し、スタンプを押す場所が光り、ガイドとなるようにしました。
- ◆ 指サックを使用してみました。手袋が苦手なFさんですが、作業の時間には自分で取ってしまうことありませんでした。
- ◆ 作業机を大きい机に変更しました。



紙を取りやすいように切り込みを入れています。



発光を増やすため、周囲にアルミホイルを貼っています。



### 専門家からのアドバイス

★ 一人一人の障害の特性に合わせて、作業内容を分かりやすく伝えることが大事です。Fさんの場合、**決まった位置にスタンプが押せるように、「見て分かる」補助具を工夫**してみてください。

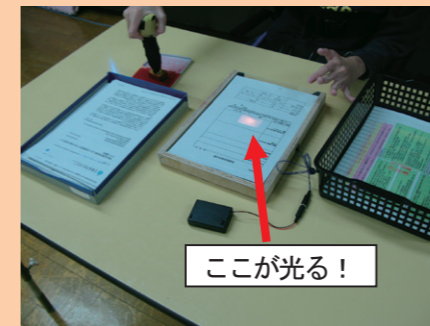
#### 「一人で行える」ようにするための更なる工夫

- ★ 用紙を一枚ずつ取り出すことが難しいようなので、指サックを使ってみましょう。
- ★ 道具や用紙をよく落としてしまいますね。また、作業スペースが狭く、作業がやりにくそうですので、工夫をしましょう。



【専門家】

### 生徒が「一人で行える」ようになった姿



- ◆ 光る位置をガイドに、用紙の中央にスタンプを押すことができるようになりました。
- ◆ 作業机が大きくなったので、身体を真っ直ぐにして作業を進めることができました。

◆ スタンプを押す場所が、分かるようになったことで、作業に集中して取り組めるようになり作業量が増えました。

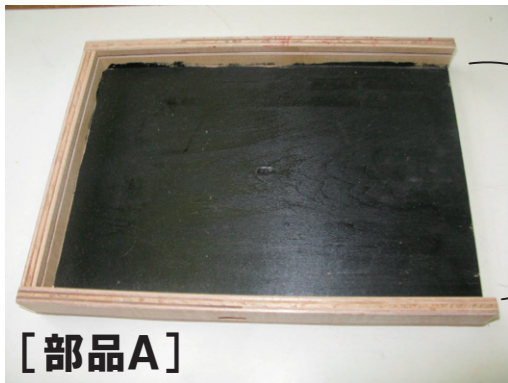


# 「光るスタンプ台」の作り方

誰でも、決められた場所に正確に、押印できるようになります。

## ◆ 作成手順

### 1 [部品A] を作成する。

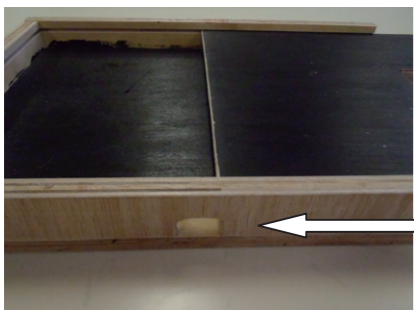


①ベニア板を、A4用紙より一回り大きく（合板の接着のりしろを取ります）切り出す。

内側がA4サイズになるように気をつけます。



②合板を、丸のこ盤を利用して[部品B]がはめ込めるように、ひき溝をつける。



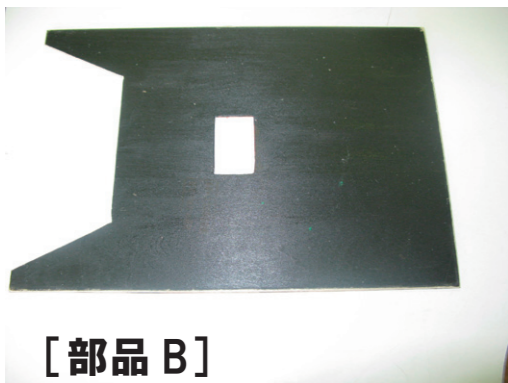
側面の一枚は、リード線を通せるように先に穴を開けておきます。



③合板をベニア板の三方向に貼り付け、箱状にする。



### 2 [部品B] を作成する。



④ [部品A] にはめ込む大きさに切り出したベニア板の中央部に、糸のこ盤でスタンプと同じ大きさに切り、豆電球の明かりが見えるようにする。

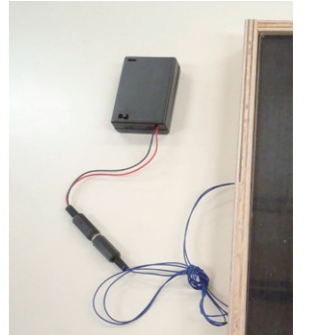
⑤ 手前側を、生徒がスタンプを押したあと、紙を取りやすいように糸のこ盤で切る。

### 3 [部品C] を作成する。

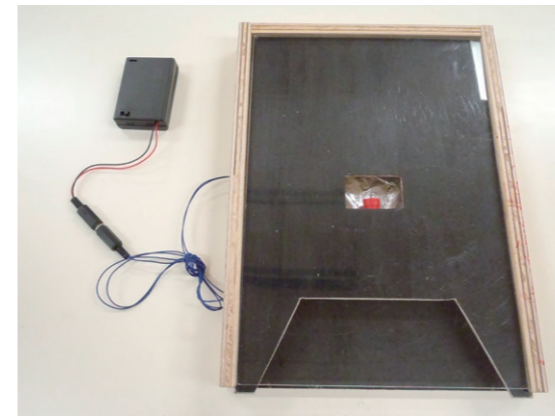


⑥ 豆電球、リード線、電池ボックスをつなぐ。

片付けるときに簡単に取り外せるようにジャックにしました。



### 4 完成。



⑦ 透明のプラ板をA4サイズに切る。

⑧ 発光量を増やすため、[部品A]の中央部にアルミホイルを貼る。

⑨ [部品A] [部品B] [部品C] を組み立てる。

## ◆ 材料

合板(厚さ15mm)、ベニア板、プラ板、豆電球、ソケット、リード線、スイッチ付き電池ボックス(単3直列)、プラグ、アルミホイル など



## ◆ 作成のポイント

- ★ スタンプを押す土台となるため、[部品A] はしっかりとした構造になるよう、合板の加工では丸のこ盤を利用しています。
- ★ 用紙を載せたときにガイドとなるよう、寸法を確かめながら作成します。

